

作物名 **ほうれんそう** (アカザ科)

J A 2022 版

標準作型

○印・播種(種まき)

□印・収穫

作 型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
春まき			○	○	□							
夏まき							○	○	□			
秋まき	□								○	○		□

栽培のポイント

酸性土壌で有機物の少ない圃場では、葉が黄色くなり生育が途中で止まる。完熟堆肥の施用と苦土石灰の施用で土作りする。pHは6.5~7.0が良い。春から夏にかけてまく場合は、とう立ちの遅い品種を選択する必要がある。高温期に連作すると、病害が多発しやすいので、連作を避けるとともに、良質の完熟堆肥を用いて土作りを行う。秋まきが栽培しやすい。

品 種

春まき品種：パレード (サカタ)、ミラージュ (サカタ)
プリウスアーリー7 (トキタ)

夏まき品種：ジョーカー (トキタ)、プリウス (トキタ)、ミラージュ (サカタ)

秋まき品種：クロノス (サカタ)、トラッド7 (サカタ)、ハンター (カネコ)

畑の準備

苦土石灰 (10kg/a) を酸性土壌矯正のため、播種の2週間前までに施しておき、完熟堆肥 (100kg/a) のすき込みを行う。米ぬか等の有機質肥料を使用すると、タネバエ等の害虫の発生を助長することがある。

元 肥

(1 a 当たり使用量)

燐加安 MMB262 号	春まき 秋まき	12 kg	播 種 前
	夏まき	14 kg	

播 種

(種まき)

株間が狭いと軟弱になるので、間引かなくて済む程度に播種する。

低温には強いが1~2月に収穫する時は、穴あきポリフィルムや寒冷紗のトンネルをかける。

条間15㌘程度ですじまきし、5~6条ごとに通路(45㌘程度)をとる。

株間が狭いと徒長するので、株間は秋冬作が3~4㌘、春夏作が4~6㌘程度とする。
※播種量の目安：3~6dl/a

追 肥

本葉3~4枚のとき、葉色が悪く生育が遅れるときは化成肥料を施用する。

病虫害防除

病害はべと病が問題で、発生が見られる場合は抵抗性品種を用いる。虫害は5月頃のシロオビノメイガ、秋まきのケナガコナダニ、アブラムシ類によるウイルス病などが問題である。特にアブラムシ類によるウイルス病は温暖な秋に発生が多く全滅することもあるので、ほ場の近くに雑草地や管理の不十分な野菜などがあるときは、必ずベタ掛け資材を被覆するなど保護しアブラムシ類の吸汁を防ぐ。

収 穫

草丈が15~30㌘が概ねの収穫期になる。気温の低い早朝に収穫し、枯れた古葉を除いてから束ねて、調製後直ちに予冷するか、涼しいところで品温が上がらないようにして出荷する。